

スポーツ未来開拓会議「する」スポーツ分科会



スポーツの意義・効用を明確化する科学的知見に基づいた
コンディショニング向上とDX活用による、するスポーツの推進について

～人とスポーツの出会いを幸福にするために～

株式会社ユーフォリア
橋口寛

2024年5月

自己紹介



橋口寛 Hiroshi HASHIGUCHI

株式会社ユーフォリア代表取締役

メルセデス・ベンツ日本、アクセンチュア戦略グループ、企業再生等を経て、2008年8月に株式会社ユーフォリア設立。

早稲田大学教育学部卒 / ダートマス大学経営大学院 MBA

幼少時から高校まで野球。

4月5日生まれ、小学校6年生時に既に172cmある典型的な「早熟型」で、小学校からずっと肘の痛みに悩まされたことが現在の事業へつながる原体験としてある。

会社概要



社名	株式会社ユーフォリア
所在地	東京都千代田区六番町5-5 飯田ビル
代表者	代表取締役 橋口 寛/宮田 誠（共同代表/Co-founder）
事業内容	・スポーツ領域におけるITソリューション提供 （コンディショニング管理・各種データベース開発・コンサルティング） ・スポーツマーケティング（戦略構築・商品開発支援） ・スポーツデータサイエンス
資本金	100百万円
設立	2008年8月
従業員数	60名

Vision

私たちがめざすもの

**ユーフォリア
ーすべての人の可能性が生きる未来へー**

Mission

私たちの使命

人とスポーツの出会いを幸福にする。

私たちが解決したい課題



- 多くのアスリートが、オーバーワークやケガやコンディション不良によって、**大切な試合で力を発揮できていない**
- 過剰な**経験主義や根性論**がスポーツ界には依然として蔓延しており、客観的データに基づくコンディショニングが十分に行われていない
- 無月経・暴力・ハラスメント・早生まれ問題・さまざまな事故など、**無知と無作為**によって被害者が依然として多く生まれつづけている



- データドリブンでコンディショニングを科学し、アスリート/人が**本来持っている力をフルに発揮できる**状態をつくる
- 次世代の子どもたちのために、**Oddsを変える**

ONE TAP SPORTSについて



2008

2012

2015

2016

2018

2019

2021

2024

設立
(コンサルティング等)

**ONE TAP SPORTSの
開発スタート**
(ラグビー日本代表コンディショ
ン可視化ツールとして)

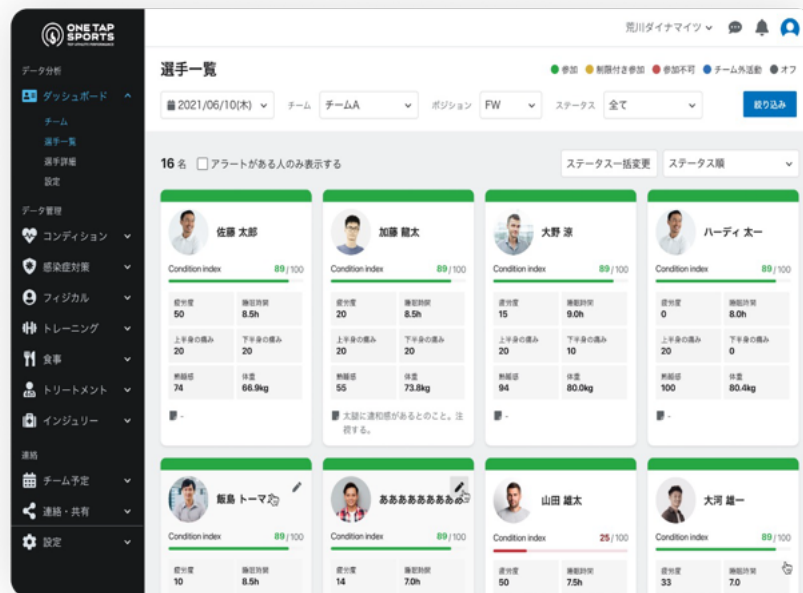
RWCイングランド
大会

リオ五輪

FIFA W杯
ロシア大会

RWC日本大会

東京2020



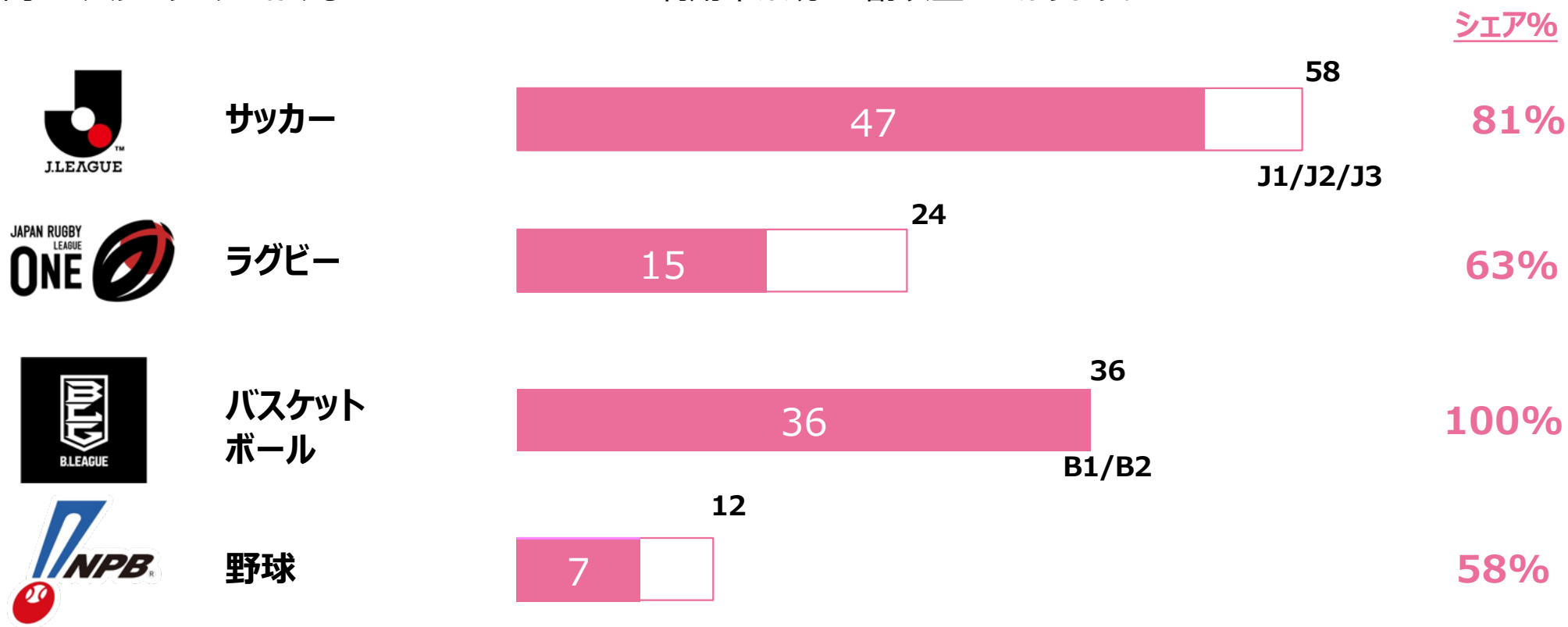
ONE TAP SPORTSの現在

- ・ ユーザーチーム数 : 1,700
- ・ 日本代表競技数 : 26
- ・ 東京五輪選手団利用 : 45%
- ・ 利用スポーツ競技 : 70 +
- ・ 利用アスリート数 : 70,000+
- ・ 利用スタッフ数 : 10,000+

トッププロチームでのONE TAP SPORTSの利用



国内の4大プロリーグにおけるONE TAP SPORTSの利用率は既に8割以上にのぼります。



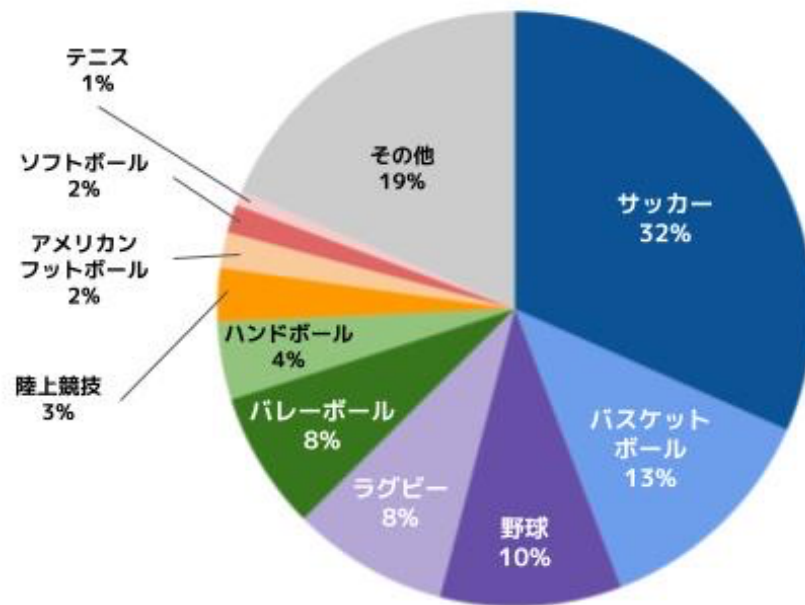
国内4大プロリーグ合計シェア
(105/130チーム)

80.7%

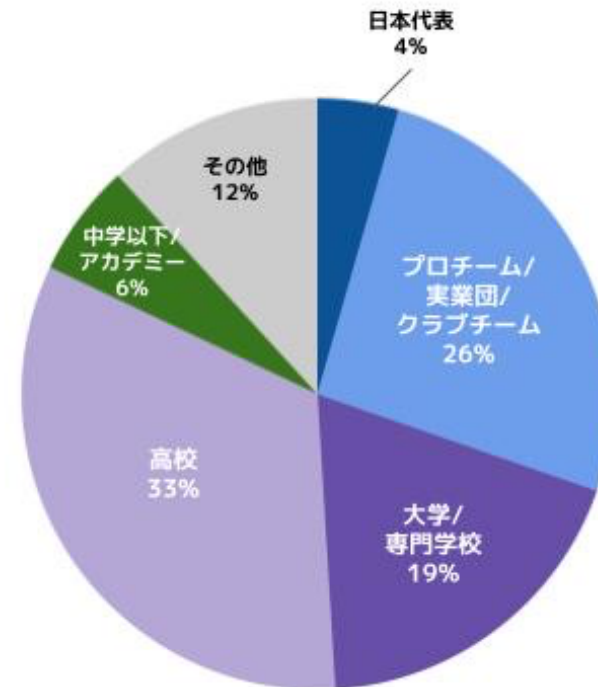
ONE TAP SPORTS 利用チームの内訳



競技別



カテゴリー別

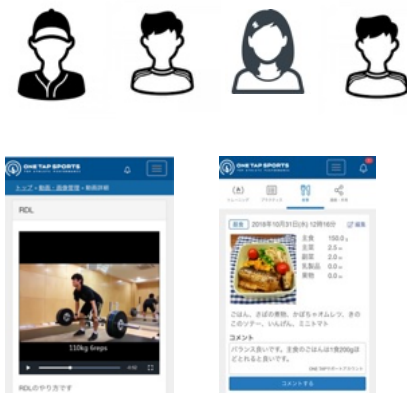


ONE TAP SPORTS について



ONE TAP SPORTSは、さまざまな立場のスタッフが、多視点から選手やチームの状態をデータで可視化するためのシステムです。

選手



コンディション、トレーニング、食事データ等の確認

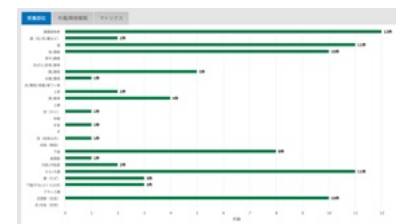


様々なセンサーデータとの連携

情報の共有と
コミュニケーション



スタッフ

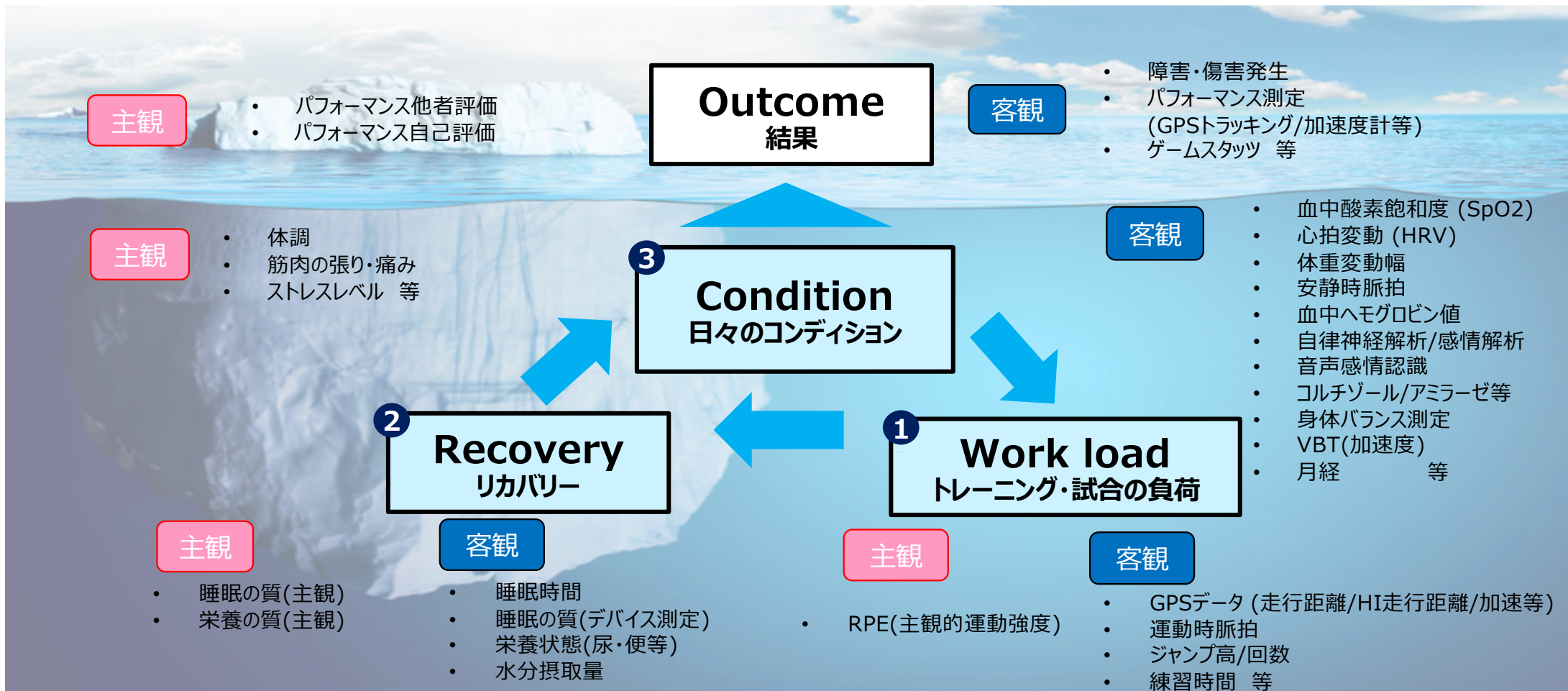


各種ダッシュボードでのデータ可視化

OTSでの取得データの例



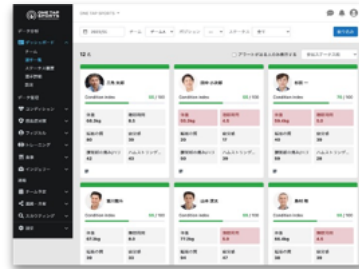
ONE TAP SPORTSでは、目に見えやすい結果だけでなく、普段は水面下に隠れがちな氷山の全体像を可視化します。



M&Aを通じたサービスラインの拡大



昨年3月のSgrum社のM&Aを通じて、トップからジュニア層まで一貫したサービスラインとなりました。



コンディショニング管理ソフトウェア
2012年～
トップスポーツに圧倒的な強みを持つ

- ・ 利用チーム： 1,700
- ・ 利用アスリート数： 70,000+
- ・ 利用スタッフ数： 10,000+
- ・ 日本代表競技数： 26
- ・ 東京五輪選手団利用： 45%
- ・ 北京五輪選手団利用： 35%
- ・ 利用スポーツ競技： 70 +



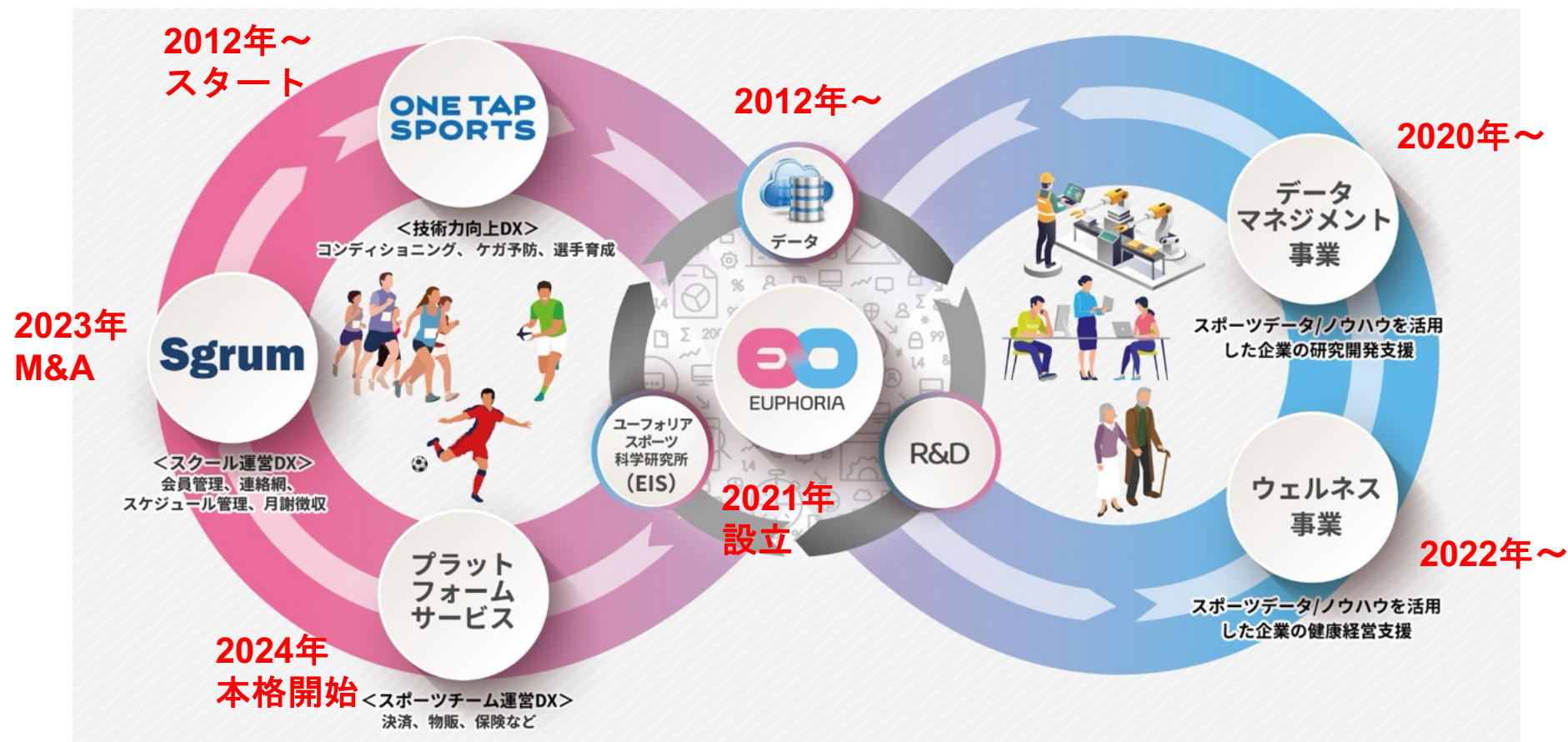
チーム管理ソフトウェア
2017年～
ジュニア年代（中・小・未就学児）に圧倒的な強みを持つ

- ・ 利用チーム： 1,000+
- ・ 利用者数： 140,000+

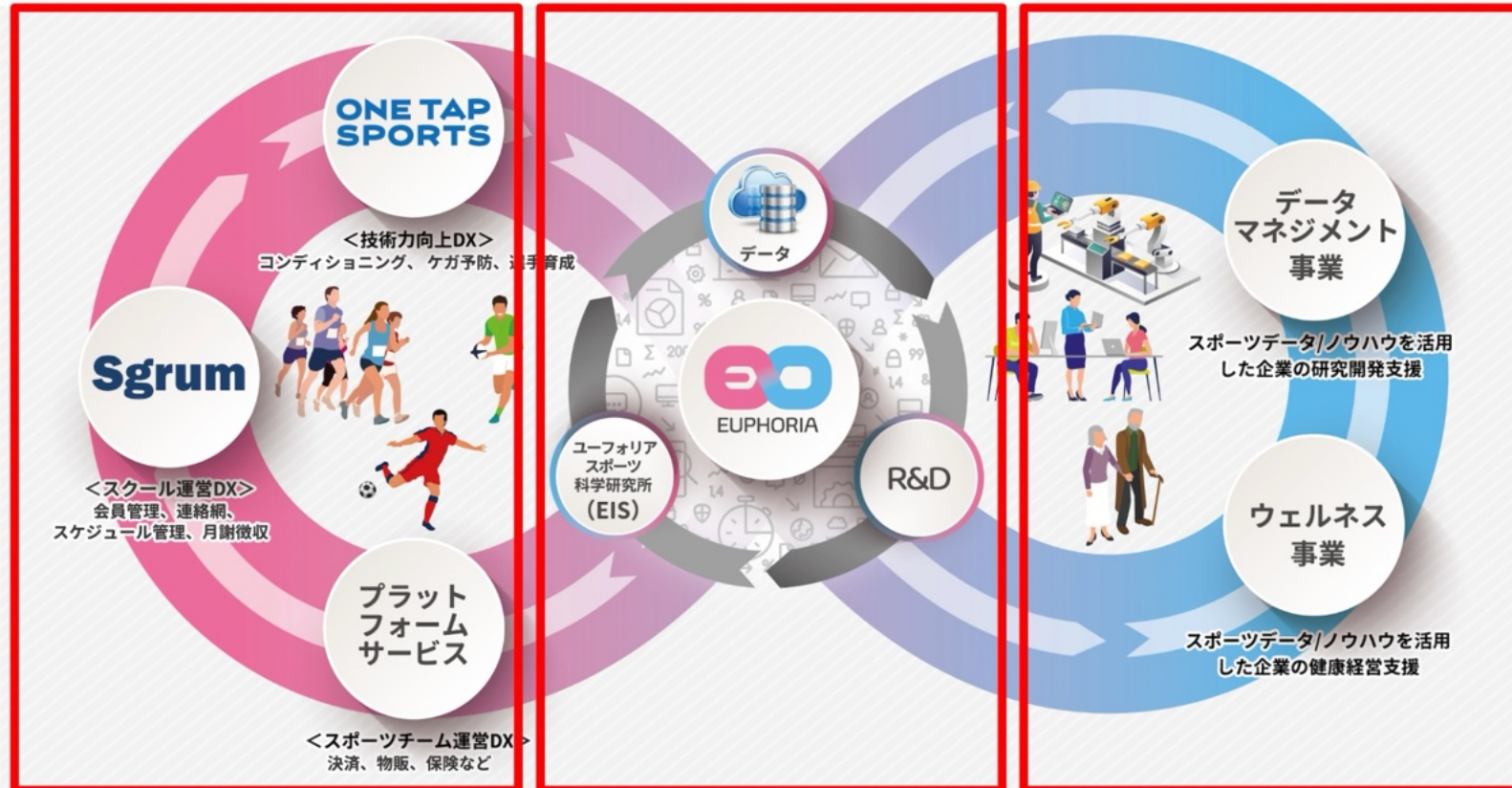
アスリート以外へのコンディショニングノウハウの拡大



フィールドワーカー（産業アスリート）や、自衛隊員（タクティカルアスリート）にもコンディショニングサポートの対象を拡大しています。



アスリート以外へのコンディショニングノウハウの拡大

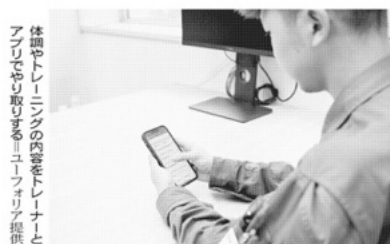


スポーツ市場を対象とした
各種DXサービスの提供

提供価値の源泉となる
大量のスポーツデータとス
ポーツ科学の専門的知見

スポーツデータ/ノウハウ
を活用した法人市場への
サービスの拡大

アスリート流健康管理、手軽に



「予防コース」では作業内容を分析し、オリジナルの体操メニューなどを作成する＝ユーフォリア提供

アスリート向けのコンディショニングサービスを手掛けるユーフォリア（東京・千代田）は企業の従業員の健康管理や生産性向上を支援するサービスを始めた。アスリート向けに培ったノウハウを腰痛や肩こりに悩む従業員向けに転用する。まずは製造業や物流、建設など従業員の肉体的負担が大きい現場に向ける。ユーフォリアはスマートフォンやタブレットを使ったアスリート向けコンディショニングサービスに強みを持つ。同社のアプリは体温や体重、筋肉の痛みや張り、精神状態などを直感的に入力できる。コーチやトレーナーが入力内容を確認し、選手のコンディショニング管理に生かす。プロ野球やサッカーリーグのほか、ワールドカップ（W杯）カタール大会に挑むサッカー日本代表チームも利用している。このほど始めた企業向けサービスはオフィス用品や家具のコンコと共同で展開する。

「予防コース」は企業や事業所の従業員全体を対象とする。業務内容に合わせて就業前や就業中、就業後に実施する体操やストレッチのメニューをトレーナーが作成し、腰痛や肩こりの予防や改善に関する知識とともに提供する。すでにコンコの工場やオフィスに先行導入し、足元では企業7社が利用する。オフィスや工場向けのコンコの製品販売網を生かし、「2024年には300社の導入を目指したい」とユーフォリアの宮田誠共同社長は話す。

海外では従業員のコンディショニング管理を担う専門職が企業に常駐することが珍しくない。米国では「産業アスレティックトレーナー」と呼ばれる国家資格にもなっている。大手企業も対応に動く。米アマゾン・ドット・コムは物流倉庫にトレーナーを常駐させ、従業員に専用スペースで体操やストレッチを提供している。その結果、2020年に従業員の筋骨格系の負傷件数は19年比で30%減ったという。米テスラも従業員の身体への違和感や痛みに対処し、けがを助けて、トレーナーが早期介入している。同じ作業を繰り返す負担を軽減するジョブローテーションも実施中だ。（松元剛雄）

ユーフォリア、ITで企業支援

アスリートのパフォーマンスを支えてきた
ONE TAP SPORTSのコンディショニングノウハウを通じて
ワーカーの皆さんの健康促進・生産性向上をサポートいたします



ウェルネスプログラム
ONE TAP SPORTS for Biz
働く人のパフォーマンスアップを叶える

データマネジメント事業



スポーツ分野の研究開発・マーケティング部門の方へ

現役アスリートの臨床研究データを商品・サービス開発に活かしませんか？

❗ トップアスリートに商品提供しているが研究開発やマーケティングに活かしていない
❗ 商品の具体的な活用方法や有効性を顧客へ適切に届けられていない

スポーツチームのネットワーク × スポーツ科学の専門的知見で研究から販売までを一気通貫でサポートします！

臨床研究サポート

研究計画作成 → 研究倫理審査 → 被験者募集・同意 → 試験実施 → データ集計・分析 → 研究結果報告

プロモーションサポート

研究結果を活用した販促支援

- ・WEB記事制作
- ・イベント内容告知
- ・サンプリングなど

＜試験参加者例（実績）＞

- ◆ プロサッカー選手（J3）：23名
- ◆ プロ自転車選手：10名
- ◆ 大学陸上長距離選手：240名
- ◆ 社会人 / 大学サッカー選手：110名
- ◆ 大学運動部所属者：1300名
- ◆ 20~50代トレーニー：80名 など

＜主な取引企業様＞

- ◆ 食品・飲料メーカー
- ◆ 製薬メーカー
- ◆ 健康機器メーカー など

必要部分のみご依頼ください

ご支援範囲

EUPHORIA

ユーフォリア 商品開発

<https://eu-phoria.jp/service/business>

※社会人サッカーチームの運動能力測定風景

ONE TAP SPORTS ラボ Vol.24

栄養士、トレーナーがサポートする「チームみとま」世界で戦うために。三笥薫がこだわるコンディショニングの極意

2022/06/29 (水) 20:00-21:30

ゲスト 三笥 薫 選手
ロイヤル・ユニオン・サン＝ジロワーズ所属

ゲスト 調理師・管理栄養士 橋本恵さん

ゲスト パフォーマンスコーチ 岡久津洋介さん

TORCH Live Meeting Vol.5

7/11 Mon. 19:00~20:30

参加費無料 オンライン開催 (Zoomウェビナー)

酒井選手の参加が決定！ 「チーム高德」と議論する 長く活躍できる選手を育てる

酒井高德 選手
Jリーグ・ヴィッセル神戸 所属

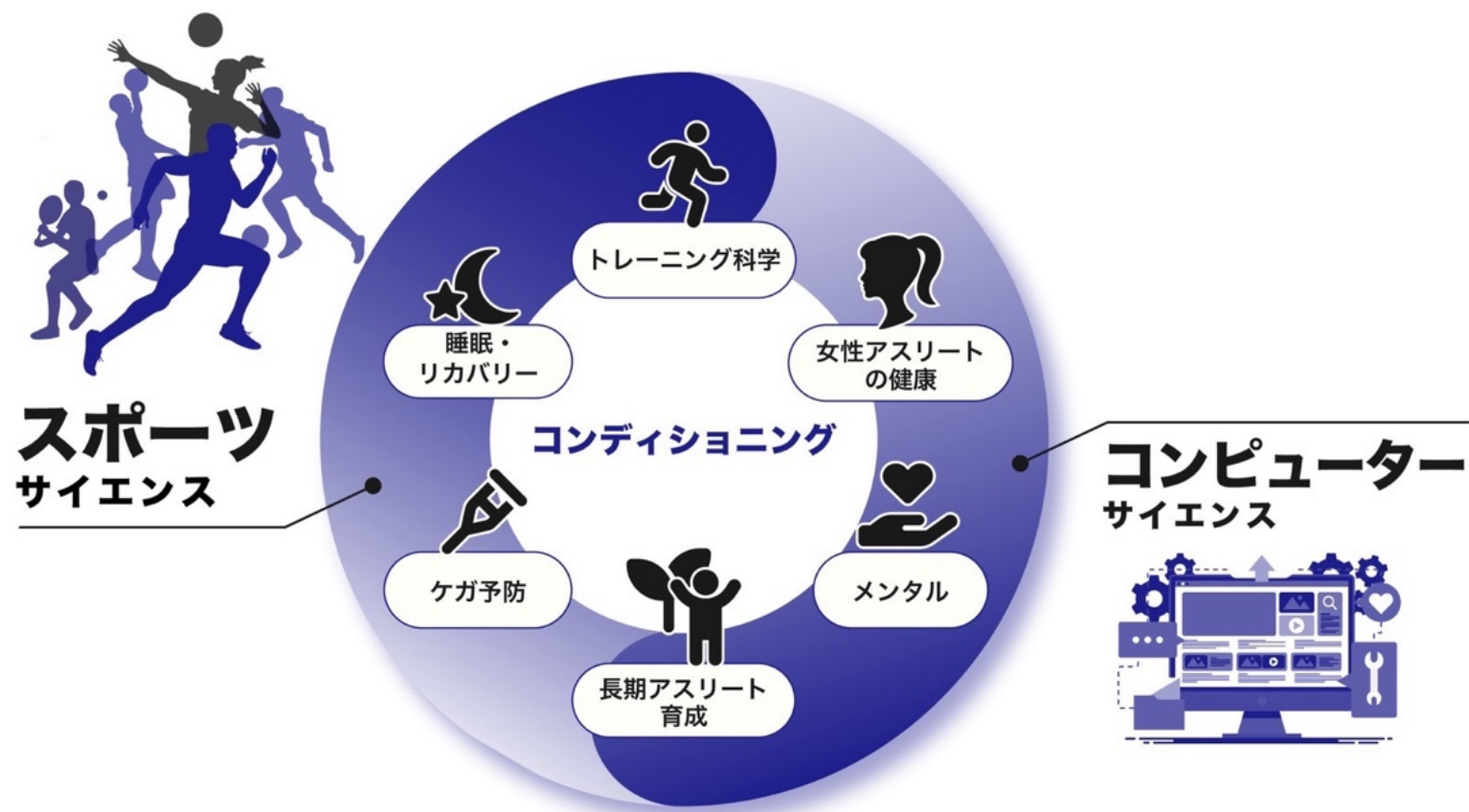
アシリテーター 宮田 誠
株式会社ユーフォリア 代表取締役

大塚慶輔 氏
株式会社ライフパフォーマンス 代表取締役
(なでしこジャパン・U-20日本女子代表フィジカルコーチ)

#指導をアップデート

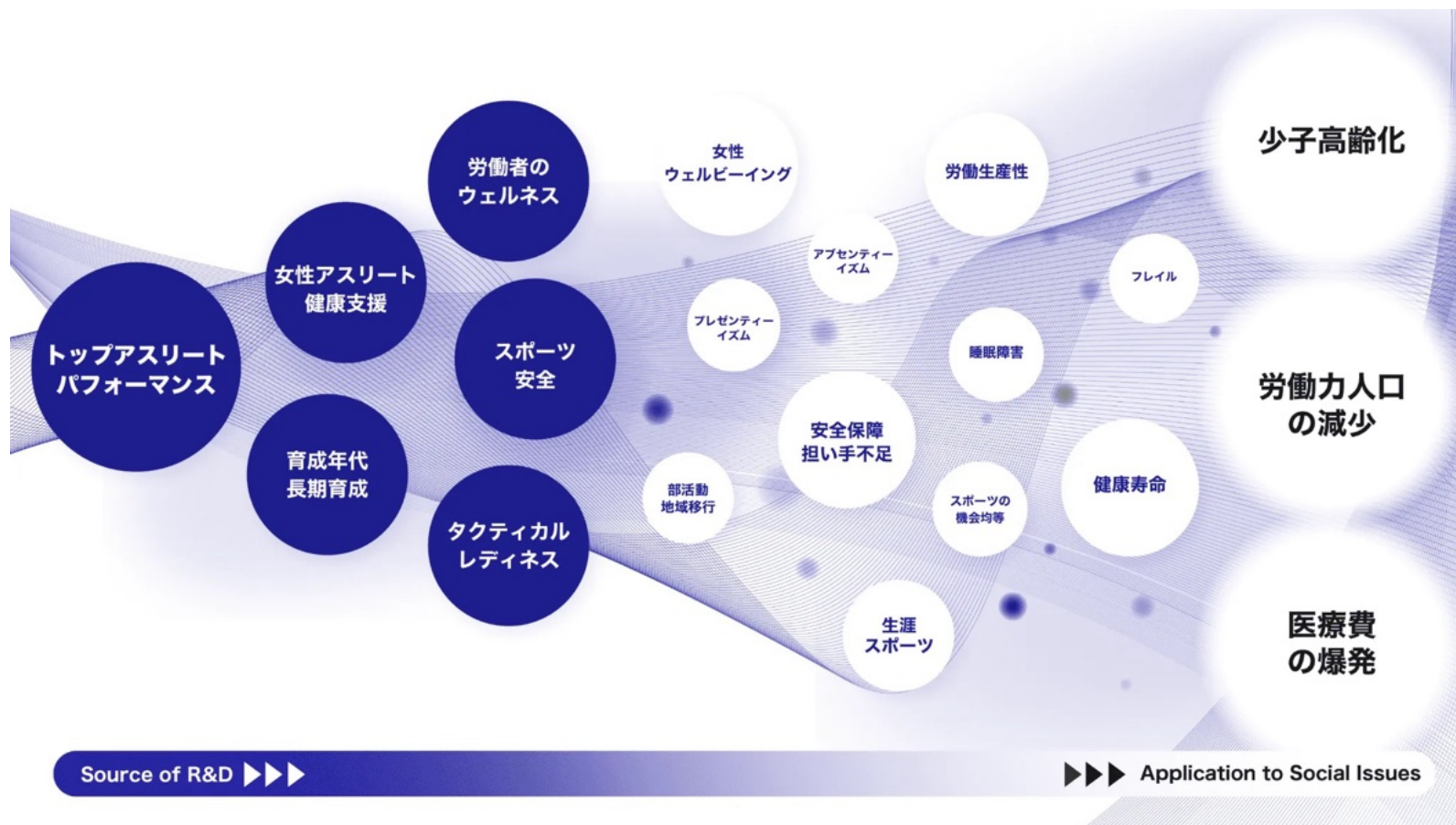
研究開発への取組

スポーツサイエンスと、コンピュータサイエンスの両面での取組を通じて、各種R&D活動を行っております。



研究開発への取組

トップアスリートのパフォーマンス向上への取組は、さまざまな我が国の社会課題の解決にもつながるものであると考えています。



ユーフォリアスポーツ科学研究所 (EIS)



3名の博士研究員社員を含めた内外の研究者の力をあわせて、「ケガの予防」「長期的な発達発育」「女子選手の月経とケガの関係性」などの研究と、実装に取り組んでいます。

ユーフォリアスポーツ科学研究所(EIS)のリエゾン研究員のみなさま(敬称略)



仰木 裕嗣

所属：慶應義塾大学政策・メディア
研究科兼環境情報学部 教授
専門：スポーツ工学、バイオメカニクス



齋田 良知

所属：順天堂大学医学部 スポーツ
医学・再生医療講座 特任教授
専門：スポーツ医学、整形外科・
外傷学、再生医療学



小山 孟志

所属：東海大学体育学部競技スポーツ学科
准教授
専門：トレーニング科学



西多 昌規

所属：早稲田大学スポーツ科学学術院
スポーツ科学部 准教授
専門：睡眠医学 精神医学 メンタルヘルス



長谷川 裕

所属：龍谷大学経営学部経営学科
スポーツサイエンスコース 教授
専門：パフォーマンス分析、
トレーニング科学



細川 由梨

所属：早稲田大学スポーツ科学学術院
スポーツ科学部 准教授
専門：スポーツセーフティ、環境運動
生理学、アスレティックトレーニング



広瀬 統一

所属：早稲田大学スポーツ科学学術院
スポーツ科学部 教授
専門：アスレティックトレーニング



星川 精豪

所属：青山学院大学社会情報学部、
日本バスケットボール協会技術委員会スポーツ
パフォーマンス部会
専門：ユース育成、スポーツ医学



須永 美歌子

所属：日本体育大学
児童スポーツ教育学部 教授
専門：女性アスリート、コンディショニング



廣瀬 俊朗

所属：株式会社HiRAKU代表取締役
専門：キャプテンシー・リーダーシップ



永田智久

所属：産業医科大学産業生態科学研究所
産業保健経営学 准教授
専門：産業医学（疫学、経済評価）、健康経営



馬見塚 尚孝

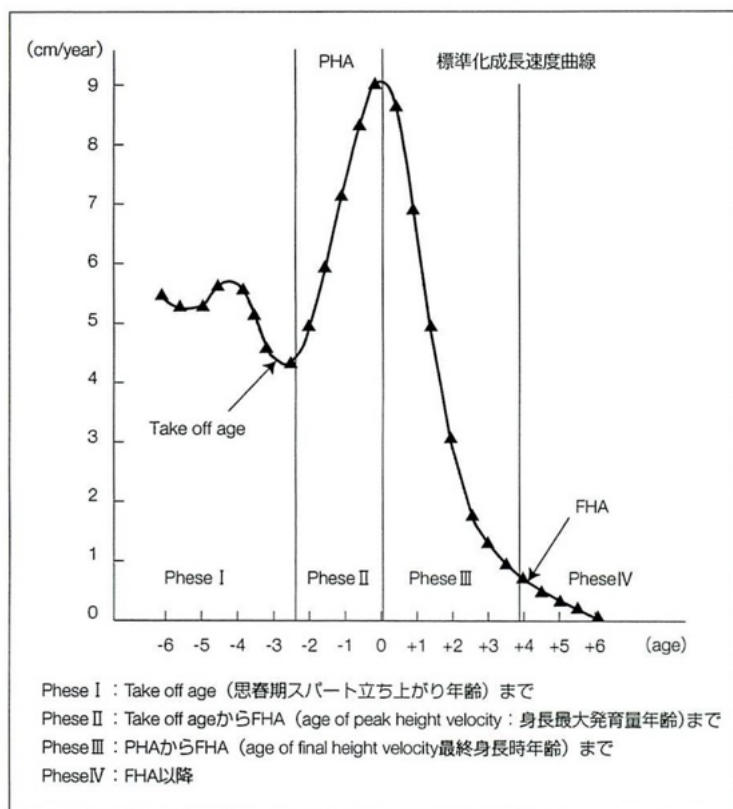
所属：ベースボール&スポーツクリニック
野球医学センター長
専門：野球医学

成長マネジメント機能



ジュニア年代からの成長をサポートする機能をONE TAP SPORTSに実装し活用いただいています。

成長速度曲線/PHVAの概念



PHVA : Peak Height Velocity Age
年間の身長増加がピークとなる年齢

TOA : Take Off Age
身長の伸び率が落ちた後に
身長が大きく伸び始める年齢

FHA : Final Height Velocity Age
身長の増加が1cm未満になる年齢

ONE TAP SPORTSでできること

- **成人身長予測機能**
(大人になった時にどれくらいの身長になるか)
- **PHVA予測機能**
(いつPHVAが来るかをmaturity-offset法で予測。座高が必要！)
- **Phase判定機能**
(今どの成長フェーズにいるか)
- **過去の成長速度の履歴**
(FHAになってどれくらい経過しているか)



この機能を通じて、指導者が選手の「個人差」に応じた指導(負荷のコントロール)を行い、障害を減らしていけるよう手助けをしたい

成長マネジメント機能の活用



© 2024年4月16日 15:11



【ONE TAP SPORTS活用法 第2回（前編）】「早熟と晩熟でチームを二つ編成。前橋中央硬式野球クラブの“10年先”を見据えた取り組み



群馬県で“10年先”を見据えてさまざまな取り組みを行っているチームがある。NPO法人「前橋中央硬式野球クラブ」が運営する前橋中央ボーイズと前橋ボーイズだ。

選手たちを大きく育てようというアプローチの一つが今春、春原太一代表にとってうれしい形で身を結んだ。OBで高崎健康福祉大学高崎高校（健大高崎）に進んだ3番・高山裕次郎が決勝で勝ち越しタイムリーを放つなど、群馬県勢初の全国制覇に大きく貢献したのだ。



© 2024年4月16日 18:36



【ONE TAP SPORTS活用法 第2回（後編）】「晩熟の子を取りこぼさないように。前橋中央ボーイズからプロになった“普通”の中学生からの学び



NPO法人「前橋中央硬式野球クラブ」が中学生年代を二つのチームに分けて活動し始めたのは、今から16年前の2008年にさかのぼる。

現在は ONE TAP SPORTS（ワンタップスポーツ）のアプリを使用し、成長度合いや希望する進路に応じて“早熟系”が前橋ボーイズ、“晩熟系”が前橋中央ボーイズと二つのチームに振り分けているが、当初は異なる基準だった。春原太一代表が振り返る。

「例えば同じ力量のキャッチャーが2人いるとして、両者を同じチームに入れておいたほうが強くなると思います。でも試合に出場させることを考えると、違うチームに振り分けたほうがいい。どうすれば試合に多く出られるかを考えて分けました」

Sgrumによる部活動地域移行の情報インフラ提供

～部活動地域移行をハードランディングさせず、機会を未来に残すために～



プレスリリース 2024-05-28

ユーフォリアが運営する部活動の運営管理アプリ「Sgrum」が、静岡県磐田市の部活動地域移行の実証事業に参加



保護者／生徒との連絡やスケジュール共有など煩雑な運営業務の効率化を支援します

スポーツテック企業のユーフォリア（本社：東京都千代田区、共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、静岡県磐田市が進める部活動改革において、磐田市教育委員会（放課後活動課）が運営事務局となり設立する、新たな地域クラブ活動「SPO☆CUL IWATA」の運営管理の実証事業に「Sgrum（スグラム）」が参加することをお知らせいたします。3月27日、アプリ活用に関する連携協定に調印いたしました。

プレスリリース 2024-05-21

ユーフォリアが運営する部活動の運営管理アプリ「Sgrum」が、福岡県宗像市の公立中学校の部活動地域移行事業で採用



保護者／生徒との連絡やスケジュール共有などの運営業務をアプリで効率化

スポーツテック企業のユーフォリア（本社：東京都千代田区、共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、福岡県宗像市が進める市内の公立中学校の学校部活動を地域クラブ活動に段階的に移行する部活動改革において、市が主催し、委託された株式会社グローバルアリーナ（本社：福岡県宗像市、代表取締役：近藤 勇、以下 グローバルアリーナ）が設立した「むなかたアカデミッククラブ」の運営業務システムに「Sgrum（スグラム）」が採用されたことをお知らせいたします。

プレスリリース 2024-02-20

スポーツテックのユーフォリアが展開する「Sgrum」が、埼玉県白岡市の全公立中学校の部活動地域移行事業で採用



埼玉県白岡市の部活動地域移行事業において運営管理ツールに採用されました

保護者／生徒との連絡やスケジュール共有などの運営業務をアプリで効率化

スポーツテック企業のユーフォリア（本社：東京都千代田区、共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、埼玉県白岡市が進める市内の全公立中学校の部活動改革において、地域スポーツ活動の運営を担う総合型地域スポーツクラブ「白岡シュポルト・ファースト」の部活動運営業務システムに「Sgrum（スグラム）」が採用されたことをお知らせいたします。

ONE TAP SPORTSによる部活動でのコンディショニング支援 ～データドリブンの スマート部活動実現のために～



プレスリリース 2024-04-25

ONE TAP SPORTS、東京都教育委員会が指定する都立高校などの56部活動でコンディションアプリとして採用されました



指定部活動56部の生徒を対象としたコンディションの可視化、競技力の向上、トレーニングの効率化、ケガ予防をサポート

スポーツテック企業のユーフォリア（本社：東京都千代田区、共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、東京都教育委員会が指定する「Sport-Science Promotion Club」の競技力向上に向けた「コンディションアプリの活用業務委託」の委託先として、ONE TAP SPORTSが採用され、サポートをスタートしたことをお知らせします。

プレスリリース 2022-05-02

ONE TAP SPORTS、さいたま市の「スマート部活動」実証実験に参加



データと理論に基づく科学的かつ効果的・効率的な指導法の確立のために市内中学校部活動をサポート

スポーツテック企業の株式会社ユーフォリア（本社：東京都千代田区 共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、さいたま市が進める「スポーツを科学する生徒の育成事業」（令和3年度）に参加し、2021年7月～12月に市内2校の中学校部活動で実証実験・研究を行いました。コンディション管理ソフトONE TAP SPORTSの利用、およびアスレティックトレーナー、栄養士の介入により、フィジカルパフォーマンスの向上、食事スコアの向上が見られたことをお知らせいたします。

公益財団法人スポーツ安全協会との業務提携

～より安全・安心なスポーツ環境確立のために～



お知らせ 2024-03-05

ユーフォリアと公益財団法人スポーツ安全協会が業務提携



平素は格別のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、株式会社ユーフォリア（以下、ユーフォリア）は、[公益財団法人スポーツ安全協会](#)（本部：東京都港区、会長：布村幸彦）と2024年2月13日に業務提携契約を締結したことをお知らせいたします。

本提携をもって、両者のリソースとネットワークを結集させ、サステナブルなスポーツ環境の整備、安全で豊かなスポーツの普及奨励を力合わせて行ってまいります。

BリーグのSCS推進チームへの参画

～選手の命を守り、怪我を防ぎ、より魅力的なリーグになるために～



プレスリリース 2023-09-12

ONE TAP SPORTSがデータ収集・集計した「B.LEAGUE 2022-23 SEASON Injury Report」が公開

ONE TAP SPORTSによりデータ収集・集計した「B.LEAGUE 2022-23 SEASON Injury Report」が公開



ONE TAP SPORTSにより全B.LEAGUEクラブ（B1/B2）の外傷・障害データを収集・集計し、ケガ予防および選手稼働の最大化に貢献する

スポーツテック企業のユーフォリア（本社：東京都千代田区、共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、アスリートのコンディションデータプラットフォーム「ONE TAP SPORTS」を通じて、B.LEAGUEクラブで2022-23シーズン中に発生した外傷・障害データを収集・集計し、本日発表された「[B.LEAGUE 2022-23 SEASON Injury Report](https://www.bleague.jp/files/user/injurysurvey_20240131.pdf)」（以下 レポート）の発行へ協力したことをお知らせいたします。

7 日本代表選手の外傷障害発生状況

B.LEAGUE

+ 日本代表選手の外傷・障害発生割合は同国籍区分で同等程度にプレータイムがある日本代表以外の選手の割合と比較して**1.19倍高い**

- ・日本代表選手の外傷・障害発生割合は57.1%であり、同国籍区分で同等程度にプレータイムがある日本代表以外の選手（47.9%）と比較して外傷・障害発生割合が1.19倍高い
- ・本集計に用いた日本代表の活動時期は主にプレシーズンの期間であり、B.LEAGUEのシーズンに向けて心身の準備性を高める上で、その他の選手に比べてリスク要因を抱えた可能性がある

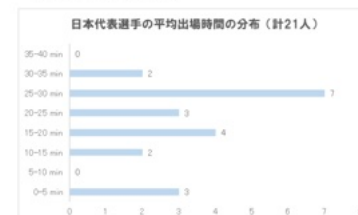
	対象人数	受傷者人数	発生割合
日本代表 ^a	21	12	57.1%
日本代表以外参考値 ^b	71	34	47.9%

^a 日本代表には、FIBAバスケットボールワールドカップ2023 および

第19回アジア競技大会（2022/杭州）における日本代表選手21名が該当

^b 国籍区分が「日本人」もしくは「帰化」(日本代表に選出され得る国籍区分)であり、平均プレータイムが20-25分の選手の外傷・障害発生割合を参考値として算出した

- ・日本代表選手のリーグ戦における平均出場時間の分布は以下の通り
- ・平均値は20.08であり、比較対象の参考値は20-25minの日本代表選手を除く選手群にて算出している



2024.03.19 JAPAN PROFESSIONAL BASKETBALL LEAGUE PB

“B.LEAGUE 2022-23 SEASON Injury Report”
https://www.bleague.jp/files/user/injurysurvey_20240131.pdf

さまざまなスポーツ科学研究への取組 ～研究倫理/データ取扱いの厳格化もあわせて～



お知らせ 2023-03-08

女性アスリートの月経周期と外傷・障害発生との関連性に関する研究を開始しました



ユーフォリアは、2022年10月より「月経周期とスポーツ外傷・障害の関連の検証」プロジェクトを開始しました。

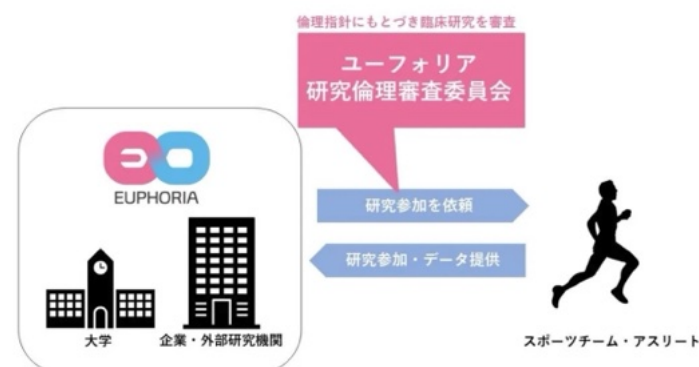
このプロジェクトでは、以下について検証します。

1. 稀発月経や無月経[注1]などの月経周期異常がある場合に外傷・障害の発生率が増加するか
2. 月経の頻度が減ると外傷・障害発生率が増加するか
3. 正常な月経周期[注2]を有する場合においてもどこか特定のフェーズ[注3]で外傷・障害発生率が増加するか

このプロジェクトを開始した背景には、女性アスリートをとりまく環境にまだまだ根深く残る「月経」を軽視する価値観があります。女性アスリートに特有の健康障害を「女性アスリートの三主徴」と総称して呼ぶようになり、予防のための対策について専門家や研究者により発信されることも増えてきた昨今ではありますが、無月経などの月経周期異常と外傷・障害発生リスクとの関連は研究途上であり、まだまだスポーツ指導者一人ひとりに届いていません。

プレスリリース 2021-12-14

ユーフォリア、スポーツデータを適切に取り扱うための研究倫理審査委員会を設立



高い倫理観、責任感を持ち、コンプライアンス意識に基づいた研究開発活動を推進します

スポーツテック企業の株式会社ユーフォリア（本社：東京都千代田区 共同代表：橋口 寛／宮田 誠、以下 ユーフォリア）は、ユーフォリアが実施するスポーツチーム・アスリートとともに研究において、研究参加者の身体・精神の安全と個人情報保護および倫理性・科学的根拠などが厳格な審査のもとで行われるための体制整備を目的に、「ユーフォリア研究倫理審査委員会」を設立したことをお知らせいたします。

その他研究テーマ



その他さまざまな研究テーマに継続的に取り組んでいます。

- 女性アスリートの外傷・障害発生に関する研究
 - 長期的な発達発育・運動能力発達に関する研究
 - VRヘッドセットを用いたコンディション評価に関する研究
 - コンディション予測アルゴリズム開発に関する研究
- 等々

TORCH ～スポーツ科学で指導をアップデートするメディア～

保護者や指導者などを対象に情報発信するための活動にも取り組んでいます。



The screenshot shows the TORCH website homepage. At the top, there's a navigation bar with 'ホーム' (Home), 'シリーズ' (Series), 'カテゴリ' (Category), 'イベント' (Event), and '用募集' (Recruitment). Below the navigation bar, there's a section titled '育成' (Development) with 26 items. The main content area features several articles and event listings, including 'TORCH Live Meeting Vol.6' and 'TORCH Live Meeting Vol.5'. Each article includes a title, a brief description, and a date.

This section displays a grid of TORCH Live Meeting event thumbnails and descriptions. Each event includes a title, a brief description, and a date. The events are organized into columns, with each column representing a different session or topic. The thumbnails show various speakers and event formats, including live meetings and online meetings.

次世代の健やかなスポーツ環境をつくるための情報共有



各NFの育成年代の責任者との情報共有と発信も行っています。



Youtubeで全セッション見ることができます

<https://www.youtube.com/@juniorsportsMTG>

9:30~ 9:45	ラグビー 流通経済大学 スポーツコミュニケーション学科 教授 / 日本ラグビーフットボール協会 普及育成委員長 西機 真
9:50~10:05	バスケットボール 公益財団法人日本バスケットボール協会強化育成グループ育成セクションシニアマネージャー 山本 明
10:10~10:25	サッカー 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 広瀬 統一
10:30~10:45	野球 NPO法人BBフューチャー理事長 / 埼玉ビッグボーイズ中学部監督 阪長 友仁
10:50~11:05	ハンドボール 筑波大学体育系准教授 藤本 元
11:10~11:25	バレーボール 日本バレーボール協会 ハイパフォーマンス事業本部 デベロップ推進部 大竹 秀之

- 1 科学的エビデンスに基づく、より安全・安心なスポーツ環境をつくること
- 2 未来の世代のための環境そのものを整えること
- 3 スポーツをスポーツの外側へと拡張すること

1 安全安心なスポーツになるために

- **研究開発とソフトウェア機能提供の両面**
- **ジュニア・ユース期**（未就学～小学校～中学校～高校）と**女子スポーツ**への取組の強化
- 女子選手の**月経とケガの研究** / 長期的な**運動能力発達の研究**
- **各種負荷管理のための機能開発**
（画像解析、センサーによる加速度データ等）
- **リカバリーの可視化**（睡眠等）
- **外傷・障害の包括的サーベイランス**の取組拡大
- **スポーツ安全協会との包括的共同事業** 等

- **安全で安心できるプレー環境づくり**
(EAP-Emergency Action Plan/AED/保険/熱中症予防/
ハラスメント防止 等)
- **チームオペレーションの簡素化**
(集金・決済 / 予約 / 物品購入 / 保険加入 等)
- **プレー機会へのユニバーサルアクセスの確保**
(用具代/貧困家庭/ひとり親家庭/中学部活動機会確保 等)

3 スポーツをスポーツの外側へと拡張するために



- サービス提供対象の拡張

(競技スポーツからエンジョイスportsへ、さらにインダストリーアスリート/タクティカルアスリート/一般人へ)

- スポーツの役割の拡張

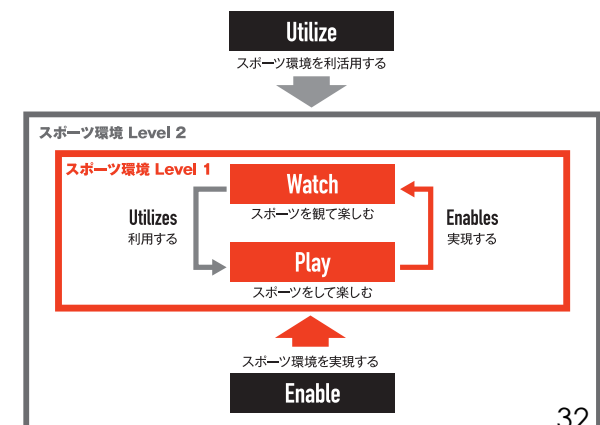
(スポーツのフィールドをR&D/商品開発の苗床へ)
(する/みる/ささえるに加えて、「つかう」という当事者の拡大)

- 運営資金の流れの拡張

(プラットフォーム上で物販・サービス販売等で資金を生むシステム/ITインフラを単なるコストセンターではなくプロフィットセンターへ)

平成29年度のパイロットプログラムを通して、参加者と教員のディスカッションによりスポーツを取り巻く4つの要素とその関係性を整理したフレームワーク - Sports ecoSystem Enabler Framework - を構築。基盤となるフレームワークを構築することにより、スポーツ経営について全体俯瞰と構成要素の繋がりを意識した多様な議論を推進。

- (1) **Play** スポーツを「する」人
- (2) **Watch** スポーツをする人を「みる」人
- (3) **Enable** スポーツ環境の実現を「ささえる」人
- (4) **Utilize** スポーツ環境を他の目的のために「つかう」人



Sports X Leaders Programより

スポーツテックの今後の拡がりについて



- ONE TAP SPORTSやユーフォリアスポーツ科学研究所は、フィールドデータの宝庫であるスポーツチームと、研究者と、企業とをつなぐ、**知の触媒**となりうる場所です
- **ハイパフォーマンススポーツはR&Dの苗床**です。
F1の技術開発が一般民生領域に広がっていったように、トップスポーツ領域でのスポーツテックの成果は、民間企業とのコラボレーションを通じて広く一般社会へも伝播していきます。
そして、それこそがスポーツの価値のひとつになりえると考えています。

さいごに：スポーツ界のインフラとして



- 少子化に向かう中でもなお、旧態依然とした根性論・理不尽な指導が蔓延しています。(ケガ・ハラスメント・暴力・無月経等々・・・こうした経験からスポーツが嫌いになる人が多い)
- ユーフォリアはスポーツ界の情報インフラとして、フィールド内(ハイパフォーマンス)もフィールド外(マネジメント)も含めて、この環境を変えることにチャレンジしていきます。
- 「スポーツ界」の外側に市場を広げ、**「グレートスポーツ市場」を創り出し**、スポーツの力で課題を解決していくために次の10年20年を投じていく覚悟を決めています。

さいごに：スポーツ界のインフラとして



- 「スポーツテック」銘柄として日本で初めて上場し、さらにその先に10倍・100倍へと成長していくことは、我々にとっての義務であり責任であると考えています。
- 「スポーツはTAMが小さい」「スポーツ市場でやっても儲からない（から別の市場に行きなさい）」と数限りなく言われてきた立場として、**我が身をもってその反証をし、さらに大きな資金の還流・循環を生みたい**と考えています。
- それこそが、未来の世代に、素晴らしいスポーツ環境を残していくために私たちにできることだと考えています。

まだまだ小さなスタートアップである当社にとっては、さまざまな協業なくして実現はできないことだと考えておりますので、どうか各種ご意見ご指導をよろしくお願いいたします。

EOP